

# 苦痛を和らげる支援も

第62回肥後医育塾、第25回日本乳癌学会市民公開講座「正しく知ろう乳がんのこと～診断から緩和ケアまで～」が10月29日、熊本市中央区のホテル日航熊本であり、約360人が聴講した。主催は公益財団法人肥後医育振興会、一般財団法人化学及血清療法研究所、熊本市日新聞社、第25回日本乳癌学会学術

総会。講座は熊本大学大学院生命科学研究部乳腺・内分泌外科学分野教授の岩瀬弘敬氏が座長を務め進行。同大学院ならびに同大医学部附属病院の4人の医師が演壇に立ち、最後にQ&Aコーナーが設けられ、医師らが聴講者からの質問に答えた。

今回の第62回肥後医育塾市民公開講座は、第25回日本乳癌学会学術総会の一環として開催されます。同総会が私が会長を務めまして、7月13～15日に福岡市で開催し、約6200人のご参加をいただき盛会となりました。本日も本講座に先立ち、この会場で、「乳がん患者フェスティバル」を開催いたしました。乳がんは激増し、現在では日本人女性の11人に1人が罹患する計算になります。早期に発見し、適切な治療を開始することが乳がんから身を守るために必要です。これからの講座は、「正しく知ろう乳がんのこと～診断から緩和ケアまで～」と題し、乳がんの遺伝、現在の治療法、抗がん剤治療、緩和ケアについて、4人の医師に講演いただきます。



座長あいさつ

岩瀬 弘敬氏

## 肥後医育塾とは

「肥後医育塾」は肥後医育振興会（西勝英理事長）と化学及血清療法研究所、熊本市日新聞社が1997年度から始めた市民公開セミナーです。正しい医学の情報を広く伝えるとともに、これからの医学・医療を考えることを目的としています。肥後医育振興会は、熊本大学医学部創立100周年を機に、96年5月に設立されました。主な活動には、公開セミナーの開催、情報誌などへの執筆・監修を通じた医療・健康情報の発信、研究費助成や外国人留学生への助成などがあります。公開セミナーの講演内容は、医療情報を紹介している肥後医育振興会のホームページ（http://www.119nigo.com/）でも閲覧できます。

## 主席者

〈開会あいさつ〉



遠藤 文夫氏  
肥後医育振興会常任理事  
くまもと江津湖療育医療センター総院長

〈開会あいさつ〉



山本 哲郎氏  
肥後医育振興会副理事長

- 〈座長〉  
岩瀬 弘敬氏  
熊本大学大学院生命科学研究部乳腺・内分泌外科学分野教授  
第25回日本乳癌学会学術総会会長
- 〈講師〉  
指宿 睦子氏  
熊本大学医学部附属病院 乳癌分子標的治療学寄附講座特任准教授
- 山本 豊氏  
熊本大学大学院生命科学研究部乳腺・内分泌外科学分野准教授
- 陶山 浩一氏  
熊本大学医学部附属病院 がんセンター 外来化学療法センター長
- 吉武 淳氏  
熊本大学医学部附属病院 緩和ケアセンター特任教授

## 受け継いだ遺伝子とともに「遺伝性乳がん卵巣がん症候群」

講演① 乳がんは遺伝するの？



指宿 睦子氏

乳がんの発症には、エストロゲンとプロゲステロンという種類の増減する女性ホルモンや生活習慣（肥満や過度の飲酒・喫煙）が関係していると考えられています。成長し生活していく過程で、こういった様々な原因により遺伝子が傷つき、その細胞がんに変化する恐れがあります。いつの間にか、人間の体には遺伝子の傷を修理し、がんが発生しないようにする仕組みも備わっています。

乳がんの発症には、エストロゲンとプロゲステロンという種類の増減する女性ホルモンや生活習慣（肥満や過度の飲酒・喫煙）が関係していると考えられています。成長し生活していく過程で、こういった様々な原因により遺伝子が傷つき、その細胞がんに変化する恐れがあります。いつの間にか、人間の体には遺伝子の傷を修理し、がんが発生しないようにする仕組みも備わっています。

「変化あり」と分かりました。アンジェリーナさんは乳がんを発症したわけではなく、がんを予防するために乳腺や卵巣を切除されました。ここ熊本で乳腺の切除を希望された場合でも、乳房の再建技術の発達により、かなりきれいな乳房に仕上がることがあります。



山本 豊氏

初診の乳がん患者の約95%は手術が可能です。そのうち約70%が適切な治療により治癒され、残り30%に再発がみられます。1980年代の乳がん手術は、乳房だけなく、その下の胸筋も全部切除する「ハルステッド手術（胸筋切除併乳房切除術）」が全体の4分の3を占めていました。90年代には大胸筋を温存して乳房全体を切除する「全胸筋温存乳房切除術」が主流になりました。その後、乳がんとその周囲の正常な乳腺組織をとり、乳房を温存する「部分切除（乳房温存手術）」が主流になり、さらに、最近では乳房の再建を前提とした手術である「単純乳房切除（皮膚温存・乳頭乳輪温存乳腺全摘術）」が普及しはじめ、乳房温存手術は現在、減少し始めています。

## 講演② 乳がん治療はこんなに変わった

### 普及しはじめた乳房再建手術 最適な薬物療法で治療効果向上

この減少が意味するのは、乳房全摘が望ましい人に対し、以前は本人の希望により、無理をして乳房温存手術を行っていたものが、乳房再建術式の普及により、乳房温存手術が減ってきたと考えられます。

腋窩（えきか）の手術は、脇の下のリンパ節を周囲の脂肪と一緒切除する「腋窩リンパ節郭清（かくせい）術」と、がんが最初にたどるリンパ節だけを取って、転移を調べる「センチネルリンパ節生検」があります。もし、センチネルリンパ節に転移がなければ、周囲のリンパ節を切除せず温存します。乳がん手術の後遺症には、美容的な問題のほか、腕の腫れ、腕の痛みやしびれ、腕が挙げにくいなど、腕に関する問題があります。これらは腋窩リンパ節郭清に伴う後遺症といえます。センチネルリンパ節生検を行っても少しは後遺症が起きますが、その頻度には大差があります。

# 正しく知るこゝ乳がんのこと

講演③ 抗がん剤は怖くない

## 医療者との信頼関係を構築して 適切な抗がん剤副作用対策を

一般に、抗がん剤治療は「きつ」「つらい」というイメージがあります。それは、抗がん剤は普通の薬剤と比べると、がん細胞とギリギリの格闘をしなければならぬので、副作用が出やすいという特徴があるためだと考えられます。

まず、抗がん剤治療の目標は大きく分けると、「治療」「延命」「症状緩和」の3つに集約されます。そして目標に応じ、抗がん剤治療のやり方は変わります。

一方の抗がん剤の副作用には、吐き気や食欲不振、振、口内炎やだるさなどがあります。髪の毛が抜ける、手足がしびれる、皮膚が荒れる、便秘や下痢になることもあります。また、白血球が下がると感染症にかかりやすくなります。



陶山 浩一氏

一方で抗がん剤の副作用には、吐き気や食欲不振、振、口内炎やだるさなどがあります。髪の毛が抜ける、手足がしびれる、皮膚が荒れる、便秘や下痢になることもあります。また、白血球が下がると感染症にかかりやすくなります。



約300人の参加者が真剣に耳を傾けた  
熊本市中央区のホテル白帆熊本

# 進歩した乳がん治療

私が医学部を卒業したのは1993年でした。当時の緩和ケアの定義は、「治療を目指した治療が有効でなくなった患者」に対する医療行為で、「ターミナルケア（終末期医療）」といいましたが、その後、定義は改訂されました。WHO（世界保健機関）が2002年に出した緩和ケアの定義は次の通りです。

緩和ケアとは、生命を脅かす疾患による問題に直面している患者とその家族に対して、痛みやその他の身体的問題、心理社会的問題、スピリチュアルな問題を早期に発見し、的確なアセスメント対処（治療・処置）を行うことによって、苦しみを予防し、和らげることで、QOL（クオリティ・オブ・ライフ）を改善するアプローチである。



吉武 淳氏

講演④ 緩和ケアってなんだろう

## 緩和ケアは終末期医療ではなく 苦痛を和らげるための全人医療

ここには、いくつも注目すべき言葉が含まれています。まず「生命を脅かす疾患」。これは、がんだけでなく心臓病や慢性肺疾患、神経の難病も含まれます。緩和ケアの対象は「患者」だけでなく「その家族」も含まれます。そして、QOL（クオリティ・オブ・ライフ）を改善するアプローチである」とされています。

緩和ケアを推進するために、患者とその家族、医療者と緩和ケアチームメンバーが、患者の過去、現在、未来の病状、治療や予後について、共通理解を図る。そして、患者は自分の病状を正しく理解して、その理解を医療者に表明することが大切です。各患者には家族の中で役目があり、それに合った価値観も絡んでいきます。その価値観を踏まえ、常に治療を考え直していく必要があると思います。

### Q & A「あなたの質問にお答えします」

- Q1 ホルモン治療を始めて5カ月たちます。関節痛や神経痛のほか、朝起きたとき、全身にこわばりがあります。A1 薬の副作用の可能性がありますが、日常生活に支障がないのであれば、基本的には薬の服用を続ける必要があります。ホルモン治療の副作用で、朝は特に関節が滑らかに動きにくくなりますので、車の暖機運転をイメージし、体をゆっくり動かしてから起床するようにしてください。（山本）
- Q2 今話題となっている新薬がありますか。A2 11月頃に発売予定の分子標的治療薬「バルボシクリン」は、ホルモン受容体が陽性であるけれどもホルモン療法が効きにくい人に対するがん治療薬として期待されています。ただし、いくつかの副作用がみられることと、保険適用となっても、大変に高価です。（山本）
- Q3 免疫チェックポイント阻害薬についてご紹介ください。A3 ヒトには免疫力があるので、理論上、がん細胞は簡単には増殖できないはずなのですが、免疫力を巧妙に抑えて増殖するしくみを持っています。免疫チェックポイント阻害薬はその抑えられた免疫力を再び活性化することで、がん細胞の増殖を抑えます。乳がんではまだ実用化されていませんが、皮膚や肺、胃や腎臓のがんでは実用化され、大腸がんにも

- 対しても効果が期待されています。ただ自己免疫疾患のような重症となる副作用が報告されていますので、「夢の薬」と思わないで、専門医と相談して治療を受けてください。（陶山）
- Q4 乳がんで年間に多くの女性が亡くなっていると聞きました。亡くなる場所は病院や自宅、どこがいいのでしょうか。A4 どこで亡くなるのが皆さんにとって幸せですか。それかなえるのが緩和ケアです。どっちがいい、悪いではなくて、どうしたいのかを考えることが重要です。（吉武）
- Q5 抗がん剤やホルモン治療をしている間、飲酒は断った方がいいのでしょうか。A5 ホルモン療法は肝臓で代謝されます。ホルモン療法と抗がん剤治療を併用する場合だけでなく、ホルモン療法単独の場合も、肝臓に負担をかけますので、できればお酒は控えていただいたほうがいいのです。ただ、時々で量も多くなければ、いいのではないかと思います。（指宿）

なを行ないます。その他、だるさ対策、脱毛対策、しびれ対策、皮膚障害などのいろいろな症状に対応した対策があります。これらの副作用をうまく我々医療者が評価するために患者さんからの訴えも重要です。そのためには、患者さんと医療者との良好な信頼関係を構築していただきたいと思ひます。

日本人の死因の1位はがんです。これから先は、がんとの付き合い方が多くの人の課題になると思ひます。これまでの古いイメージとも異なる、「がん死」といっては、日本人全体で見直す必要があると思ひます。ぜひ、正しい知識のもとに、必要に応じて皆様の有意義な人生のために抗がん剤を利用してやる、ぐらひの気持ちで抗がん剤と付き合っただけだと思ひます。